

| 評価点 | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|------------|-----------------|--|---|---|--|--|
| 観点 | PPDAC | | 標準レベルを達成でき たといえない | 標準的なレベルを概 ね達成できた | 標準レベルを越えて 達成できた | |
| 課題 発見力 | P 問題 | 理想だけ、もしくは、現実だけに着目しており、問い合わせても解が見つかり、抽象的な問題設定である。 | 理想と現実のギャップを見出しているが、立てた問い合わせすぐに解が見つかり、やや抽象的な問題設定である。 | 研究の目的が明確であり、適切な問い合わせができており、具体的な問題設定である。 | 複数の問い合わせから、具体的な問題設定である。 | 先行研究を根拠して独自性のある具体的な問題設定である。 |
| | P 計画 | 仮説が立てられていない。 (まだ問い合わせあり、仮説になっていない。) | 仮説を立てているが、研究による見通しを欠いている。(期限内で終わる見込みがない。) | 適切な仮説を立てており、期限までに完成の見込みがある計画を立てている。 | 問題解決につながるデータ収集の方法までの計画を立てることができている。 | 問題解決につながるデータ収集・可視化・分析手法の計画を立てることができている。 |
| 課題 解決力 | D データ | データ収集ができない。 | データ収集ができるが、整理・整形ができない。 | データ収集ができ、整理・整形ができる。 | 問題解決につながるデータ収集ができ、整理・整形ができる。 | 創造的な問題解決につながる複数の分野のデータ収集を行い、整理・整形ができている。 |
| | A 分析 | インターネットや先行研究等、他者による可視化のままである。 | データ可視化をしているが、作法として不十分な点が見受けられる。 | データの可視化がなされ、適切な数値を扱い、データ解析ができる。 | 問題解決につながるデータの可視化、数値の扱い、データ解析ができる。 | データの可視化、適切な統計手法を用いた客観的なデータ解析ができる。 |
| | C 結論 | 分析結果と結論がつながっていない。もしくは、分析結果をそのまま示しただけで考察していない。 | おおむね結論をまとめることができているが、不十分な点がある。 | 考察を行い、適切に結論をまとめることができている。 | データを適切に分析し、問題解決にむけた説得力のある結論である。 | 問題の意味を広く認識し、分析結果をもとにさらに広い視野で結論を導いている。 |
| 表現力 | ポスター スライドの構成 | 体裁が不十分である。 | 各章ごとのつながりが弱く、研究内容の理解が十分にできない。 | 各章ごとでは論理的なつながりがあり、研究内容をある程度理解することができる。 | 章立てが適切に行われており、研究の流れが理解できる構成である。 | 研究内容の全体が十分に理解でき、聞き手に伝わりやすい工夫がなされた構成である。 |
| プレゼンテーション力 | 発表態度 | 必要以上に資料等を見ながら発表し、聞き手に向かって発表できていない。 | 聞き手に向かって発表できているが、声の大きさ・速さなどが不十分である。 | 聞き手に伝わるように発表できている。 | ジェスチャー・抑揚・間の取り方など、聞き手に伝わりやすくするための工夫をしながら発表できている。 | 聞き手に目配りしながら、聞き手の反応を見ながら発表できている。 |

○ 「A 分析」の評価 2 の「作法」について：

軸の項目、単位、キャプションが正しく書かれているか、複数のグラフの比較では軸がそろっているかなど

○ 「表現力」の評価 1 の「体裁」について：

誤字脱字がない/文字のフォントや大きさが適當/グラフの情報に不足がない(タイトル、軸の項目、単位など)/表や図にキャプションが正しく書かれている(表は上・グラフは下)/見やすいデザインなど